



北海道教育研究所連盟研修会報告

7月30日と11月25日の2回おこなわれた道研連では「学習評価」と「ICT機器を活用した教育活動」について、研修を実施しました。

夏季研修では「主体的に学習に取り組む態度」の育成と評価について取り上げ、ルーブリックの作成について紹介されました。ルーブリックを作成することによって、A基準とB基準の違いを明確にすることが大切だということでした。実際に演習で作成に取り組んでみると、その單元ごとのA基準を明確にすることが大切だと感じる反面、その基準の客観性や具体的な評価方法に難しさを感じました。ICT機器を活用した教育活動では、1人1台端末の様々な活用例が紹介されました。特に様々なクラウドサービスについて研修を深めました。

冬季研修では「信頼性のある学習評価の在り方」について研修がおこなわれ、教師の負担軽減のために「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を明確に分ける方法や「主体的に学習に取り組む態度」の具体的な評価方法が紹介されました。その一つの例として、右の表のように他の二観点の評価と連動させて、明白な根拠がある場合は一段上げ下げする方法が紹介されました。図の中にあるように「もともとこの観点を信頼性、妥当性をもって評価するのは難しい」ので、これからもより良い評価の方法を目指して、研修が必要であると感じました。ICT機器を活用した教育活動では、「情報モラル教育」の現状と必要性をあらためて考えさせられました。

また、大阪での取り組みが掲載されているHPも紹介されました。せっかくの機会なので、アドレスを掲載しておきます。

<参考資料>

動画で見えるおおさかのICT活用事例大阪府教育センター <http://wwwc.osaka-c.ed.jp/osakaict/>

ルーブリックとは

成功の度合いを示す数値的な尺度や標語に見られる認識や行為の質的特徴を示した記述語からなる評価基準のこと(西岡加名恵・石井英真・田中浩二編『新しい教育評価入門』151頁)

【参考】「主体的に学習に取り組む態度の評定」の考え方 例①

表 第3観点、評定の求め方(小・中学校)

「知識・技能」：知、「思考・判断・表現」：思、「主体的に学習に取り組む態度」：主

	小 学 校				中 学 校			
	主の 基本	評定の 基本	明白な根拠がある 主の 変更	評定の 変更	主の 基本	評定の 基本	明白な根拠がある 主の 変更	評定の 変更
AA	A	3	B		A	5	B	4
AB/BA	B	2	A	3	A	4	B	3
BB	B	2	A		B	3	A	
BC/CB	B	2	C	1	B	2	C	1
CC	C	1	B		C	1	B	
AC	B	2			B	3		

鈴木秀幸「『主体的に学習に取り組む態度』の評定—他の二観点と連動させる—」『指導と評価』2021年11月号38-40頁 12

【参考】「主体的に学習に取り組む態度の評定」の考え方 例②

明白な根拠がある場合

もともとこの観点を信頼性、妥当性をもって評価するのは難しいので、**誰が見ても一段下げる(上げる)べきと考える(明白な根拠がある)場合に限定すべきである**

↓段下げるケース(粘り強く学習に取り組むことに反する)

- 授業が始まってすぐに、授業とは別のこと(別の科目の学習など)をやりはじめてしまうようなことが頻繁にある
- 宿題を出したのに、ほとんどやってこない 等

↑段上げるケース

- 「わからない場面を改善するための方法を考えることができる段階」と判断できる ※メタ認知能力
- (A基準の)多くのキーワードに該当する場合 ※粘り強さ

鈴木秀幸「『主体的に学習に取り組む態度』の評定—他の二観点と連動させる—」『指導と評価』2021年11月号38-40頁 13

「管内研修センター等連携」研修講座（ミニ道研）報告

＜午前の部＞

10月5日、令和3年度「管内研修センター等連携」研修講座（ミニ道研）が行われました。ICT機器を活用した講義・演習を通して、資質・能力の育成に向けた具体策について理解を深め、自校における取り組みの充実を図ることをねらいとした講座でした。個別最適な学びや協働的な学びを通じて、全ての子どもたちの可能性を引き出すことができる教育を形づくる必要があると確認し、主に授業での一人一台端末の活用方法について協議を重ねました。

GoogleのFormsの使用方法、テキストマイニング、Jamboardの活用についてわかりやすく説明がなされ、参加者がどのような実践をしているのかの交流をしました。その中で、Formsの活用では、単語テスト、小テスト、道徳、総合的な学習の時間の中で生徒たちがアンケートを取りたいと思う場面などで有効に使うことができるという意見が出ました。また、授業だけでなく、教員間での研修にも活用できる場面が多々あること、各学校で取り組んでいる生徒の健康観察などについても使用できるなどが挙げられ、交流を深めることができました。

最後には、これまでの教育実践の蓄積とICT機器を掛け合わせることが学びの深化や学びの転換を行うきっかけになり、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善につながるというまとめがあり、参加者にとって非常に有意義な時間となりました。

＜午後の部＞

自らの学びを振り返る学習指導の在り方について、北海道立研究所研究主幹の飯塚俊郎様よりお話し頂きました。オンラインではなく対面での研修となり、距離をとりながらグループワークにも取り組むことができました。研修の導入では、各先生の課題意識の共有、子どもの姿や実践内容を交流することができたため、より自分事として考えながら研修を受けることができました。講座では、学習指導要領改定の趣旨、主体的・対話的で深い学びの資料を確認したうえで「学習指導要領改訂に込められた願い」をご紹介頂きました。そもそも、なぜそのような改訂が必要だったのか、そこを土台に考えることで、授業改善の視点を一段深く見つめることができたように思います。講座後半では振り返りを次の活動に活かすには？周りの人達と共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業をつくるには？そもそも深い学びとはどのようにとらえれば良いのか？といった重要な内容を、対話を通して学ぶことができました。

(2)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

【視点2】「ねらい」から「まとめ・振り返り」までの1単位時間のデザイン

1 単位時間で完結できる導入・展開・終末の時間配分をする。

◆ 評価規準に基づいて最も効果的な学習活動を、時間配分を工夫して組み立てる

	「思考力・判断力・表現力」の育成をねらいとした例	「知識・技能」の習得をねらいとした例
導入1分	学習課題	学習課題
	見出し	見出し
展開10分	個人で思考	個人で習得
	ペア・集団で思考	ペア・集団で習得
	個人で思考	まとめ
終末5分	まとめ	個人で習熟
	振り返り	振り返り

本時のねらいに応じて、「個人思考」「ペア・集団での思考」「個人で習熟」の時間を十分に確保していますか。

市町村の研究会報告

次年度「釧路管内教育研究大会(学教研)」の開催を予定している浜中町教育研究所の各部会の取り組みの様子を町研所報「はまなか」から抜粋して紹介させていただきます。

【社会部会】

霧多布中学校の佐藤先生が、2年生の地理分野の「北海道地方」の授業を公開してくださいました。授業では、「環境保全と産業の発展はどちらを優先すべき」をテーマにプレゼンをするため、グループでの事前調査がタブレットを使って行われました。事後研では、「タブレットを使った調査活動は生徒が意欲的に取り組んでいる」や「対立によってジレンマが生まれたことで、対話が活発になった」などの意見がでました。また、タブレットの活用において町内のネット環境に格差がある現状への課題も出されました。

社会部会では、「主体的・対話的な活動をうながす授業づくり」を目指しています。今回の授業では、生徒たちにジレンマが生まれたことで対話が活発な授業となりました。この授業研を参考にして、次年度の学教研へとつなげていければと考えています。

社会部会 部長 茶内中学校 小野 幹男

【保健体育部会】

9月13日に行われた一斉研究日では、茶内中学校の大島先生による、中学3年生の球技(サッカー)を参観させていただきました。授業は、オフボール(ボールを持たない人)の動きとパスの工夫を意識させ、相手の守りを崩すための作戦を考えるという授業でした。運動量を確保しつつも、思考を深めるためにタブレットや作戦ボードを活用するなど、生徒が主体的に課題解決できるよう工夫がされていました。



事後研では、主に対話的な活動の在り方について協議しました。ただ話し合い活動をすれば良いのではなく、他者・自己・教材との対話など、教科の特性を生かしながら、どのような方法で対話を授業に盛り込んでいくのか工夫できるのではないかと気付くことができました。今後の授業づくりに生かしていける、大変有意義な機会となりました。

次回、9月21日に茶内小学校の小林先生による授業研を行います。

保健体育部会 部長 散布中学校 尾崎 唯

【算数・数学部会】

算数・数学部会では子どもの主体的な学びを引き出し、確かな学力を育む授業をテーマに小学校における算数、中学校における数学の2つのブロックごとにそれぞれ違った視点から意見交流を行っています。小学校ではICT機器を活用した授業づくりに力を入れており、実践交流の動画を持ち寄って小学校のみならず中学校教諭からの視点を交流しました。中学校では思考力・判断力・表現力の育成を重点におき、散布中学校齊藤先生の連立方程式の授業案を検討したり、小学校教諭からの新しい見方をもとによりよい授業づくりについて検討しました。また、部員1人ひとりの普段行っている実践をレポート形式にしてブロックごとに交流を行いました。新学習指導要領が中学校でも完全移行したことやGIGAスクールに伴う1人1台のタブレット端末があることを授業の中に今後も活用してより深い学びに結びつくことを目標に授業実践していきたいと考えています。

算数数学部会 部長 霧多布中学校 高木 優人

調査研究部としてできる「調査研究」について

釧路教育研究所 調査研究部長 續 智仁

調査研究部の仕事は、「所報の発行」「ミニ道研の運営」「学教研の運営」などがあります。

今年度、学教研は開催しないため、来年度の浜中大会開催に向けて、釧研として浜中町教育研究所と連携を図っているところです。

これらの他に、「調査研究」という仕事があります。

この仕事は、昨年度から新たに加わったものです。例えば、管内の小・中学校研究主題一覧、管内における研究会・講座一覧等の作成、学習指導要領改訂にかかわる各校の取り組み状況の紹介など、所報を通して発信するものです。

今年度になり、学習指導要領の改訂に関わって調査しようという計画を立てていましたが、コロナ禍でなかなか思うように集まるのが難しかったことも重なり、具体的な調査の方向性が定まっていなかったというのが現状です。

そこで、まずは、調査研究部所員の学校で抱える課題や実践の交流（勉強会）を行うことから始めてみようと考え、「主体的に学習に取り組む態度」の評価のあり方について、それぞれの学校での取り組み状況がわかる資料を、10月の所員研修会の際に持ち寄りました。

交流する中で、単元を通して変容した生徒自身の考えを書かせるなど、ワークシートの内容を工夫していることが分かりました。また、教員にアンケートをとることによって、評価する際の課題を洗い出すなど、取り組み方は様々であることを改めて発見することができました。それと同時に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、「知識・技能」や「思考・判断・表現」とは切り離して考えることができないのではないかと、できるだけコンスタントに評価資料を集めることが大切ではないか、というような疑問も生まれてきました。

私たち所員がこのような疑問をもつということは、他の学校、他の先生も、同じような考えや疑問をもっているかもしれません。

今後、このような「勉強会」を通して、授業研究部の授業実践ともリンクさせながら、調査研究部としてできる「調査研究」の方向性を見つけていきたいと考えています。

事務局通信

昨年度からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止への対応が続き、今年度も学校現場では、教育活動を展開する上で、様々な変更や修正、時には延期や中止が求められました。それでも、「感染症対策を十分に講じた上で実施できることは何か」という視点を大切にしながら、2学期を終えようとしていることと存じます。

「学教研浜中大会」につきましても、昨年度に引き続いて、開催は叶いませんでしたが、「市町村研究会報告」にもありますとおり、浜中町の先生方は、実践を積み上げています。当研究所としても、次年度の開催には、全面的にバックアップできるよう努めてまいります。（事務局）

★釧路教育研究所★ 所報307号

発行日：令和3年12月

発行所：釧路教育研究所

発行者：大西展史

URL

<http://senken.net/>

E-mail

info@senken.net



アクセス用QRコード